

＜秋まき小麦の栽培＞

1 追肥について

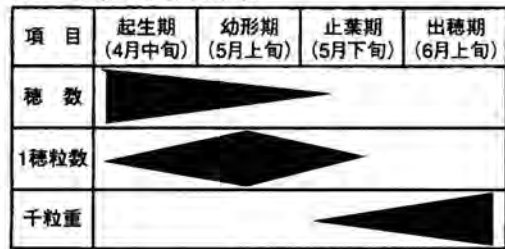
幼穂形成期、止葉期の窒素施肥量は起生期の茎数に応じ、下表のとおりです。

ただし、倒伏の危険がある茎数の場合は追肥を控えましょう。

茎数が倒伏の危険を大きく超える時は、次の項目にある倒伏軽減剤の使用を検討しましょう。

起生期の茎数(本/㎡)	幼穂形成期	止葉期
1,000本/㎡以上	6	4
800～1,000本/㎡	4	
800本/㎡未満	4	

図1 窒素施肥時期と効果



2 倒伏軽減剤について

倒伏の危険がある場合は早めに対応しましょう。幼穂形成期から散布が可能です。

薬剤	使用時期	10a 当り使用量	使用回数	注意事項
サイコセルPRO	幼穂形成期	150～200mL	1	水 100L
	出穂前 20～10 日	200～300mL	1	水 100L、草丈 40～60cm
エスレル10	止葉期～出穂始期	200～333mL	1	水 100L
カルタイムフロアブル	止葉期～出穂 5 日前	150mL	1	水 100L

3 雑草と除草剤について

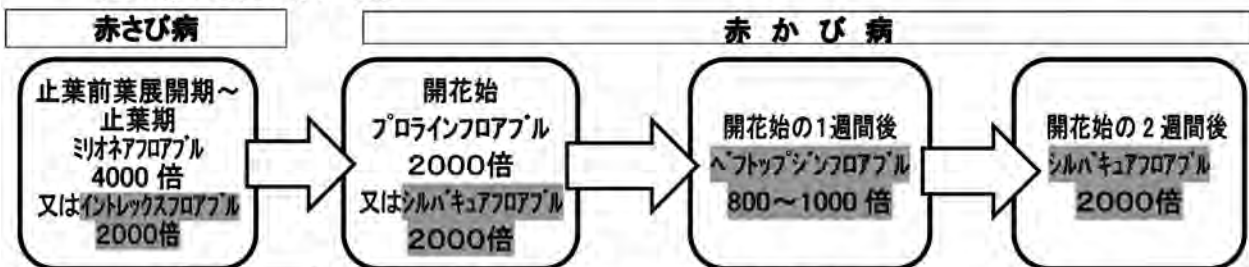
除草剤	主な対象雑草	使用時期	10a 当り使用量	使用回数	注意事項
エコパートフロアブル	シロサ <sup>○</sup> 、タテ <sup>○</sup> 類、ハコバ <sup>○</sup>	雑草発生始期 (止葉抽出前まで) (収穫 45 日前まで)	50～75 mL	2	展着剤は加用しない、薬害の恐れがあるので、小麦止葉抽出前までに散布する。
バサグラン液剤	タテ <sup>○</sup> 類、ハコバ <sup>○</sup> 、ナス <sup>○</sup> ナ、スカシコ <sup>○</sup> ポウ <sup>○</sup> 等	麦の幼穂形成期 (春生えのみ) (収穫 45 日前まで)	100～150 mL	1	散布後の降雨は効果が劣るので、好天の続く見込みの時期に散布する。
MCPソーダ塩	シロサ <sup>○</sup> 、ハコバ <sup>○</sup> 、ナス <sup>○</sup> ナ、スカシコ <sup>○</sup> ポウ <sup>○</sup> 等	麦の幼穂形成期 (収穫 45 日前まで)	200～300 g	1	日中の気温が 20℃以上の好天日を選び散布する。
ハーモニー75 DF <sup>(注)</sup>	シロサ <sup>○</sup> 、タテ <sup>○</sup> 類、ハコバ <sup>○</sup> 等 <sup>(注)</sup>	麦の幼穂形成期 (収穫 45 日前まで)	7.5～10 g	1	イヌカミツレに有効。使用後は必ず散布器具を専用の洗浄剤でよく洗浄する。

注) ハーモニーのキシキシ類は 10a 当たり使用量 3～5g。

4 病虫害防除について

- (1) 眼紋病 幼穂形成期 カンタスドライフロアブル 1500倍  
ファンタジスタ顆粒水和剤 2000倍 (赤さび病にも登録)

- (2) 赤さび病、赤かび病



※ [ ] は無人航空機の登録有り (倍率はラベルを確認して下さい)。

- (3) アブラムシ類 開花始めの一週間後 ペイオフME液剤 2000倍

※農薬の使用前には、必ずラベルを確認し、正しく使用しましょう。